

## 主な記事

世界人口の動向……………	1
支会別対策……………	2
佐藤工博の論文……………	3
本学部入学許可者……………	6
会員動静……………	7

## 千曲會報

昭和34年6月1日発行

長野県上田市常入  
信州大学繊維学部内  
編集兼発行人 小山長雄

信州大学繊維学部内  
発行所 社団法人 千曲会

昭和31年6月18日第3種郵便物認可 毎月1日発行 定価1部15円 振替口座 長野 6243 東京 43341

## 世界人口の動向

世界の人口は50年を待たないで、天変地変あるいは人口の動向に変化の生じない限り60億に達するだろう。1958年と57年に世界の人口は9000万人増加した。これは日本の総人口あるいはフランスの総人口に当る。来る2年間に更に1億の増加が期待される。この事実は国連が発行した総合研究の成果「世界人口の将来の成長」に示されている。

この20世紀ほど人類が急激に倍加したことは、これまで人間の歴史に見られない。世界の人口が25億に達するのに20万年かかった。それが、いまや向う僅か30年でさらに20億増加する見込である。現在の増加率で行くと向う600年以内に——それはアメリカ大陸が発見される少し前から相当する年限である——人間1人は僅か1平方メートルの土地しか持たなくなるだろう。もちろん現実にそうなるといふのではなく、それを防止する何事かが起るであろうことを暗示する。

この有史以来の人類増加の主要原因は、一般に想像されているように高度の出生率によるのではなく、死亡率の劇的大減少によるものである。死亡率は世界のあらゆる所で低下している。特にこれは世界人口の密集している未開発諸国内で著しい。このほとんど奇蹟に等しい死の克服は、薬品と衛生の発達によるものであり、その結果寿命は長くなり、幼児死亡率は減少したのである。

従来高度の死亡率と高度の受胎能力のあった幾多の地域において死亡率の最低が1956年と57年に記録された。もし出生率が同じように低下しているとすれば人口成長率はこれ程急ではないだろうと多くの国の出生率は低下していない。また農業国のそれは高くなった儘である。現在1秒間に出生3、死亡2となっている。来る20年間には1秒間に出生4、死亡2を期待出来るだろう。

出生数はラテン・アメリカで恐らく倍加し、アフリカとアジアでは2分の1の増加となり、ヨーロッパの変化は太したことはないだろう。中国では現在年次自然増加は2%であるから1年1000万人の増加である。経済の発達した国では第2次大戦以後人口成長率は低く現在0.5~1.5%で、死亡率が低いので、比較的低い出生率の変化によって左右されている。出生率は多少低下傾向にある。日本の出生率は現在横ばいを呈している。

死亡率低下は年少人口の増加となる。死亡から救われる生

命は幼児と子供に多いからである。又年少人口の増加は受胎能力の上昇を期待する。しかるに先進国と後進国とはすでに出生率が相違しているので両者の年齢別人口構成は益々対称的になるだろう。即ち先進国は老人多く、後進国は子供が多いと。

未開発国の相対的人口増加は先進国より大きいので、1950年には16億4000万と推定され、2000年には48億に達するだろう。先進国では1950年に8億6000万と推定され、2000年には約15億だろうと。

一体地球が収容し得る最高人口数は何人だろうか。地球の資源で生活できる最多人口はいくらだろう。これの科学的論証による回答は困難である。その理由は新しい事態に対する人間の終極的対応を予告することが出来ないからである。しかし地球の収容能力の推定は驚異的な科学技術の発達から改定されるかもしれないが、この発達のみで収容力は依存し得るか疑わしい。即ちこの苦心の技術は高度の社会組織を必要とする人間活動の専門化を求め、個人的訓練と自制を要求し、人間としてある範囲以上どういへば我慢出来ない点に達するだろう。また社会制度上の重大な分裂は科学的発展から得られる多くの利益を無駄にすることが出来るからでもある。従来条件付推定が改定され得るか亦はどの範囲までならば改定され得るか疑問であるということになる。

技術的に進歩した地域には世界人口の約3分の1が住んでいる。これが20世紀の終りには4分の1以下になると推定される。この人口の異動は経済開発にいかなる影響を与えるか。これも困難な問題である。しかし乍ら将来の実際の人口推移は社会、経済、政治的条件の動向中受胎能率と死亡率とに影響するものの如何にかかってくる。よりよい資料を要求すると共にこの解決困難な問題の許し得る推定によって将来の人口動向がつかまれる。このため人口予想は不正確が免れない。しかし、世界の人口はかつて史上に見られなかった方法で倍加しつつあり、この倍加はまだその頂点に達していない。また地域により人口成長の大きさに相違があり、未開発諸国に於て、たとえ受胎能力が低下するとしても、自然増加率は将来相当期間中低下しないことは明かである。

(United Nations Review, February 1959 抄)

### 支会の分割活動状況について

**千葉支会** 昭和33年6月29日の会合で東京支会より分割独立して千葉支会を結成し、支会長に大沢宝市氏選任。会費納入は支会を通じて納入すること、50周年記念事業に協力することを申し合せした。現在割当完遂にいま一步の盛況。

**山梨支会** 昭和34年3月22日東京支会より独立、支会初総会を開催し本会より町田理事出席、支会長に鶴田定平氏、副支会長笹本保雄氏、幹事長に久保田不二夫氏選任、50周年記念事業募金割当額完遂をめざして活発なる活動を展開中。

**北陸支会** 昭和34年1月23日富山支会と結成方勸奨を北陸支会長及び富山県在勤の会員数氏に依頼す。昭和34年4月12日再度会員9名に富山支会結成尽力方依頼状を出し、目下進捗中。

**愛知支会** 東海を愛知支会と会名変更し、4地区、一の宮、津島、西三河、東三河、愛日地区に分けて再建工作を進め準備整い次第地域毎に総会を開催し、全地域の再建工作を完成し各地区総会の出席者は50%以上で大成功を取めた。50周年記念事業募金完遂を決議した。

**近畿支会** 昭和33年5月23日支会員7名に支会活動が低調であるから総会開催方を申し入れた。同11月9日総会において京都、滋賀、和歌山、大阪、奈良の地区の責任者を決定して記念事業募金を推進することを申し合せたが支会区域が広範囲のため支会活動不十分であるので、このたび支会長、地区責任者に割当完遂尽力方依頼状を出し、之を進めている。

**北奥支会** 岩手、青森、秋田と広範囲であるが事務連絡、記念事業募金も進捗しており昭和33年7月早くも募金割当完遂の承諾通知があった。このたび県毎に総会を開催し募金完遂を促進するよう数氏に依頼状を出している。

**島根支会・鳥取支会** 山陰地区として亦会員数から両支会を合併したい旨本会に申し入れてあるが、これは本会決議による支会分割方針に反するので50周年記念事業完遂まで現状支会で活動するよう懇願中。

**北九州支会** 福岡、佐賀、大分、長崎でこれも広範囲であるから、このたび県毎に会合、具体策の考究を願い、その結果報告を得て支会独立結成の段取りである。

### 理 事 会 報 告

4月18日午後2時から開催され、次項の決定をみた。

- 1 基本財産の保管について従来定期預金にしておいたが安全且つ増殖多き貸付信託にすることになり、三菱信託銀行の5年ものその他に預け替えをする。
- 2 母校50周年記念事業募金については進捗おそき支会に督促照会を行うこと、或る程度申込み見通しがついた時同実行委員会総会を開くこと、記念事業内容は周知させるため千曲会報にもれなく載せること等に決った。

3 協賛会(仮称)設立についての可否は大体賛成で、具体的方策は今後母校とも相談し、機をみて改めて協議することにする。

以上であるが遠くは東京(斉藤)、神奈川(中木)、群馬(永井)の他、北信、安筑、北佐久、上小などの支会の理事が出席された。学内理事を含めて27名であったが更に多数の御出席を希望してやまない。

### 母校創立50周年記念事業寄附募集支会別対策

募金は着々進行しているが、尚下記実状に対し理事会はその対策を決定した。

支会名	割当額	申込現在額	対 策
北海道	36,000円	1,000円	正副支会長実行委員に申込完遂方督促する。
北 奥	74,000	16,500	支会長実行委員より割当額引受けの通知あり、正式申込書提出を督促する。
宮 城	59,000	78,500	割当額突破。
山 形	61,000	10,500	支会長実行委員に総会を開催するよう申し入れる。
福 島	139,000	7,000	4月18日総会の際割当完遂を申し入れる。
茨 城	110,000	27,000	最近開催の総会結果の報告を求めるとともに割当完遂を申し入れる。
群 馬	328,000		正副支会長実行委員幹事に総会開催するよう申し入れる。
埼 玉	238,000	238,000	割当額完遂承諾を得ているが一括申込書提出方依頼状を出す。
千 葉	61,000	37,000	割当完遂に今一步であるから一奮発の依頼状を出す。
山 梨	69,000		3月22日支会総会を開催し割当完遂の見込。
東 京	705,000	47,500	正副支会長実行委員に割当完遂の申し入れをするとともに如何なる割当完遂の具体策をもっておるか本会に報告方依頼する。
神奈川	234,000	47,500	4月16日総会の際割当完遂するよう申し入れする。
越 佐	115,000	7,500	正副支会長実行委員に割当完遂を重ねて依頼する。
北 陸	139,000	29,200	富山支会の分割独立を促進して割当完遂を期す。

福井	40,000	31,200	割当完遂に今一步であるから一奮発の依頼状を出す。
北佐久	182,000	9,500	正副支会長実行委員及小山俊吾氏、荒木慎蔵氏、戸塚一氏に総会開催方支書をもって申し入れる。
南佐久	67,000		正副会長実行委員に割当完遂方督促する。
上小	947,000	148,200	18地区に分割し各責任者を設けて申し込及集金しており割当完遂の見込。
学内		459,870	
更埴	221,000	71,500	割当額突破。
北信	401,000	1,500	19日に総会開催決定し割当完遂確定の見込。
安筑	256,000	112,800	支会長実行委員に寄附募集の具体策を申し入れその報告を依頼する。
諏訪	202,000	10,000	もう一奮発を申し入れる。割当完遂の見込。
竜川	112,000		募金の進捗状況と割当完遂の具体策を照会する。
栃木	61,000		同 上
岐阜	146,000	19,000	最近開催の総会の結果報告を求めるとともに割当完遂を申し入れる。
静岡	106,000	5,000	正副支会長、支会幹部に支会再建を申し入れ進捗中である。
愛知	401,000	55,500	募金の進捗状況と割当完遂の具体策を照会する。
三重	124,000	2,700	割当額に対し120%目標で完遂進捗中。
近畿	391,000	7,500	募金申込額の結果を報告するよう申入れる。
兵庫	151,000	90,800	支会総会に於て三支部と各代表者を決定したので機能發揮し割当完遂するよう各支部の責任者に申し入れる。
三丹	108,000	146,000	割当完遂にいま一步であるから一奮発の依頼状を出す。
鳥取	20,000		割当額突破。
島根	40,000	5,000	伊藤幸男氏に申込書を至急取り集めるよう依頼する。
山陽	243,000	22,500	支会長に割当完遂の具体策を照会する。
徳島	41,000		江野村氏に募金割当完遂方依頼状を出す。
高知	15,000		支会長実行委員に至急具体策をたてて募金をすすめるよう申し入れ且つその具体策を報告するよう措置する。
愛媛	79,000	80,000	窪田禎作、田中了、小松の各氏に会合して具体策をたてるよう申し入れる。
香川	20,000		割当額突破。
北九州	167,000	28,500	支会長実行委員に至急具体策をたてて募金をすすめるよう申し入れ、その具体策を報告するよう措置する。
熊本	59,000	16,500	県毎に集合し寄附基金具体策をねりその結果を報告させる。
宮城	36,000	18,500	寄附促進を申し入れ割当達成を依頼する。
鹿児島	40,000	6,000	同 上
計	7,044,000	1,895,270	同 上

## 佐藤良泰工博の論文について

京大工学部工業化学教室 山下晋三

佐藤氏の論文は「不均質ゴム状物質に関する物性論的研究」を主題とするもので、提出された学位論文は250頁に及ぶ努力の結晶である。この論文は第I編として充填剤補強効果の理論および測定、第II編として高分子固体の多結晶構造の解析法とそれが試料の性質に及ぼす影響についてのべたものである。

我々が使用しているゴム製品、例えば履物にしろ自転車や自動車のタイヤなどにおいても、充填剤が非常にたくさん入っており、前者ではゴム100重量%に対して100~120%、後者では充填剤としてカーボンブラックが50%も混入されている。これらゴムあるいはプラスチックにカーボンブラックや炭酸カルシウムなどの充填剤（粒子径は種類によって異なる

が、大きいもので2 $\mu$ 、小さいもので大体0.02 $\mu$ 程度)を混合するのは単なる増量のためだけでなく、強度、弾性率、耐膨潤性などの諸性質を向上させるもので、工業上重要な課題であるためその理論も多数提出されている。しかし完全と思われるものはほとんどない現状である。従来の理論を大別すると粘性液体中に固体粒子が分散したコロイド溶液として取扱うEinstein流の連続物体の解析による方法と、ゴム媒質と充填剤が結合して一種の架橋点の如く働くとして取扱う近代物性論的な方法とに分れるが、前者は媒質の点で事実と異っており、後者は系の不均質系の特徴を把え得ず充填剤の大きさを無視した点で事実と離れており、ともに単なる実験式を与えるに過ぎず、理論とは遠いものであった。

そこで佐藤氏はゴム状弾性の統計力学的方法に基礎をおきさらに固体粒子が分散した場合の不均質系に対し有力な解析法を見出し、それを加えた一つの理論的取扱い方法を提案したのである。すなわち、ゴム・充填系にて粒子を中心とした多くのセルに分割し、セルの境界ではゴム分子鎖は試料の変形に比例した変形を示すという比例原理が成立し、充填剤表面ではゴム分子鎖の変形がゼロであり、粒子表面とセル界面の間では粒子表面からの距離に応じて変形が徐々に大きくなってゆくと仮定して理論を展開した。かくして媒質の分子鎖の変形のテンソル的な解析を行い、伸びと張力等の新しい関係式を誘導した。また充填剤とゴム分子鎖との凝着結合が弱いときは伸びによりその一部がはずれ空隙を生ずることが知られている。この効果は重要であるが従来取上げることができなかった。この場合の取扱いとして充填剤表面の分子鎖の変形をゼロと試料変形との中間におき、張力等の計算式を誘導した。

それらの結果より増強作用は次の三つの因子より成っていることを初めて明らかにした。その1つは“体積効果”、といわれるもので、充填剤による媒質ゴムの体積排除のため、歪がゴム媒質に偏るための増強性で、この効果は充填剤とゴムとの比で表わした充填剤濃度にほぼ比例することが明かにされた。その2は“表面効果”、といわれるもので、充填剤表面でゴム分子鎖が固定して大きい張力を示すもので、この効果は凝着の強さおよび充填剤表面積と共に急激に増大していく。その3は“空隙効果”、で、充填剤表面の凝着力の弱いとき、その一部がはずれ空隙発生のため歪の一部が緩和し、その結果負の増強効果を示す。この効果は充填剤とゴムとの比に比例するもので増強効果の一部を相殺することになる。

以上の理論によってここに初めて伸びと張力との関係、充填剤添加量と弾性との関係、充填剤の大きさおよび表面の凝着力の効果などが定量的に示された。さらに分子鎖の分極率より試料の光弾性効果の理論式も誘導され、また充填剤をふくむ加硫ゴムの膨潤平衡および膨潤したゴムの弾性の式も誘導されている。

また第二編の高分子固体の多結晶構造についての理論的取扱いは、上述のゴム状弾性論における比例原理を一般化したものである。すなわち、結晶粒子を含む系ではミセルの回転の影響を考慮した回転原理なる基礎式を提案し、これを基礎にテンソル計算をして張力の式を誘導し、これより更に試料の複屈折の式を誘導するというように第I編と同様に佐藤氏の独創的な考察をもって一貫しており、その結果では、張力および光学的性質は結晶部分および非結晶部分の寄与の他にそれらの相互作用の効果もふくむことが理論的に明かとなり、従来の実験式の取扱いの不備であることを指摘している。

さらに、延伸によって結晶が成長発達してゆく場合についての取扱いも試みられ、延伸の効果を速度定数に織り込み結

晶化速度式を誘導し、これより結晶化を伴う場合の伸びと張力との関係式を求め、文献の実験結果を解析し理論と合致することを確かめている。

以上要するに、佐藤氏の論文は充填剤および結晶粒子をふくむ系のゴム状弾性理論について1つの新しい試みを提案したものであり、その取扱いおよび実験については今後に残された部分もあるが、従来全く着手されなかった不均一系ゴム状物質の物性論の分野に新しい理論的方法を導入したものであり、純学術上および工学上寄与することが非常に大きいものである。

同氏の講演が、昨年春における日本ゴム協会総会の席上にて万雷の拍手を浴びたことは当然のことであろう。

○ ○

#### 佐藤氏について

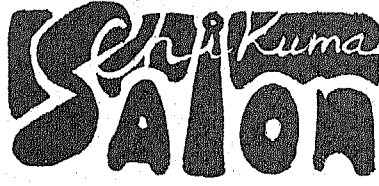
話は昭和30年の春にさかのぼる。東京において開催された物理学会での席上、同氏の講演終了後、古川教授が質問を行ったことに端を発し、両者の間に激しい質疑応答の論戦が行われた。真理に対して忠実な同氏がその後遂に机上での理論計算に不安を感じ意を決して昭和32年春入浴、京大工学部工業化学科古川研究室へ内地研究の形で入室し、高分子・充填剤系の実際問題ならびにその考察に関して古川教授との間で約7か月に亘る論議を行い、複雑なマトリックス計算を日夜を問わずこの間行ったのであった。

夏休みも返上という全く筆舌にも尽せぬ努力の末、遂に理論と現実との一致を見出した。この短期間で従前まで検討し得なかつた高分子・充填剤系の補強理論について上述のような同理論上のエポックを期し得たという事実は、古川教授の指導とはいえ、佐藤氏の数学的センスならびに現象の把握に鋭い洞察力を有していたとともに、過去十有余年の蓄積した豊富な学力によって始めてなし得たものであろう。

しかしこの仕事はそれだけで終始したのではない。さらに理論を実証するための精密な実験を行わねばならなかつた。理論家の同氏が複雑な過程を要する実験をば忠実にしかも根気よく行われたことは全く驚異的であった。このような苦しい研究から生れ出た尊い事実、すなわちゴム・充填剤系の補強機構をエントロピー弾性より解釈し、その機構要因を明確になし得たということは更により完全な次の理論の育成への大きな基盤になる。このことは疑いなき事実である。

学問の進歩——それは絶えざる努力の堆積であり、真剣さであり、又真偽に対する苛責なき判定の連続である。しかし真理へと一歩でも近づくこととする人間個性の楽しい夢でもある。「ふとん着て寝たる姿や東山——」祇園情緒ゆたかなそして落ち着いた静かな京の町とは対蹠的に、厳しい大学における学究の世界を第2の故郷として同氏の発展と絶えざる御健闘をお祈りする次第である。

(昭34.4.14. 山下記)



会員の皆様へ

浜 香 三 (紡3)

御無沙汰しておりますが、諸兄には益益御社様のこととおよろこび申し上げます。時代の進運に伴い、産業界に適應するよう、この度特許法、実用新案法、意匠法および商標法が全面的に改正され、近く施行の運びとなりました。

この際私は特許庁および満州国特許発明局での永年の審査、審判の経験と今日までの諸種の体験を通じて、発明界のためにいささかの力を致したいと思い、この度東京に居を移し別記広告の事務所を設けました。今後共倍旧の御支援と御鞭たつを賜りますよう紙上をもって御あいさつ申し上げます。

会員の近況

浅治氏大河内記念受賞

浅治製袋男氏 (紡13回) は去る4月18日第5回大河内記念賞を授賞された。この大河内記念賞は故大河内正敏博士の功績を讃える大河内記念会 (会長石坂泰三氏) が我国の科学技術と産業の発展に役立てるため、日本経済新聞の後援で設けられたもので、我国の産業又は科学技術界に重大な発展進歩をもたらす発明、研究などをなし遂げた者に授けられ、その道の最高の榮譽とされている。このような名譽ある受賞者が本会の会員中から出たことは、母校の名譽であると共に又広く同窓一同の喜びでもある。その授賞のあらまは次の通り。

- 1 授賞者 浅治製袋男 (帝国人絹岩工場第3製造部長) 外3名
- 2 授賞業績 合成繊維テレビロンの発明とその工業化

ポリ塩化ビニル、繊維商品名テレビロンの研究は、昭和25年純ポリ塩化ビニル (PVC) の繊維化に必要な安くて而も工業的に使用し得る溶剤の発見から始った。アセトン・ペレゾール混合溶剤その他数種の溶剤は密閉器中で高温加熱すればPVCの溶剤となることを発見、ついで29

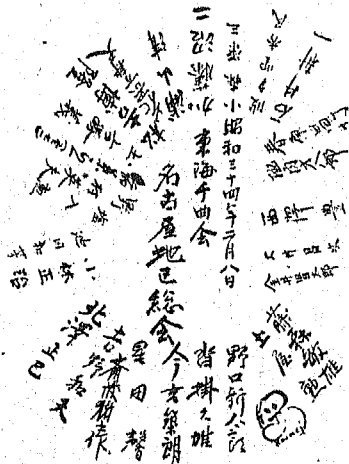
年に従来と異なる紡糸法を発見した。この紡糸法はPVCと溶剤を低温でこねあわせ均一で流動性のある分散液とする。この状態で輸送し、紡糸直前に高温加熱溶解してポンプにより紡糸口から乾式紡糸筒内に出し糸条を繰る方法である。

この後これ等の製造方法について工業化のため研究を重ね昭和31年10月長繊維量産の設備を完成し、工業用、衣料用、家庭用など広く利用されるに至った。

東海支会名古屋地区総会

ひらかる

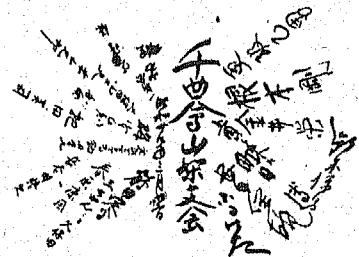
2月8日名古屋地区総会がひらかれた。極めて盛会であった由。よせがきにもあふれている。募金についても完遂意気軒昂。



山梨支会便り

3月23日春雨しぶる甲府市の料亭角柳に於て千曲会山梨支会の創立総会が開かれた。山梨支会の創立は早くから在往の同窓生が等しく希望し、本会においても東京支会よりの分離独立は希望するとあって、去る1月18日天下の名園小松農場に於て創立準備会を開催した結果今日の会合となったものである。午後1時頃ともなると次々に同志が集まる。「やあしばらく。」「初めまして私は昭和〇〇年卒業の者で。」「貴男もこちらでしたか。」等々。同窓の集りとあって誰の顔もうれしそう。気安く話合う楽しさ。この様の集りはもっと早く持たかかったと皆の口からもれる。1時50分本会から町田博理事が遙々到着、直ちに会議に入る。先ず発起人を代表して大先輩の鶴田定平氏が今日迄の経過報告を兼ねて挨拶。次いで町田理事より他支会の情況と山梨支会発足

を希望する旨の挨拶があり順次自己紹介に入る。大先輩で現所在地元の教育長をやっているという磯野良知氏立って、この会はお互が上田当時の青春に返った様な気持ちで固苦しくなくほんとうに愉快地に話合える様な会にしたいと希望をつけての挨拶。今は頭髪にややゴマ塩混りの過ぎ越方を振り返っての挨拶。どうぞよき相手をと仲々抜目のないチョンガーの挨拶。途中さる県会議員候補の事前運動に奔走している笹本保雄氏が汗をふきふきかけつける。今度片倉工業縫製系所の所長として丁度昨日着任したばかりと云う降旗孝氏がこれこそ万障を繰合せての出席に皆歓声をあげる。議事は何等異議なく、役員を選任も円満の中に支会長に鶴田定平氏、副支会長に笹本保雄氏、相談役に磯野良知氏、降旗孝氏を決定する。再び町田理事より本会の情況並に明年行われる50周年記念行事について説明があり、協力を誓い会議を終了直ちに懇親会に入る。会費の関係できれい処は居ないにしてもアルコール分だけは泉の如く、先ず支会長の分が、次いで副支会長

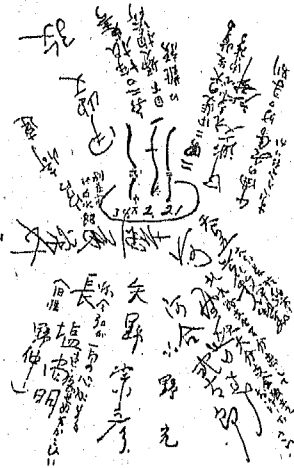


の分が夫々運ばれる。それでも足らぬ時は相談役が全部引受けるとあって大いに気をよくした面々、飲む程に酔う程に芸者そこ抜きの傑作が飛出す。誰かの「吉村劇団に入団しなくて方針を誤ったなあ。」と云う声が聞える。既に夕闇せまるも宴は益々盛ん。「幹事酒がないぞ。」「酒はどうした。」の声に幹事はテンテコ舞、頓合を見て町田理事の発声で山梨支会の万才が声高々と呼ばれる。校歌が皆の口から自然に流れ出る。応援歌が出る。果ては応援の拍手が飛び出す。

そして再び万才一応援歌と同じ事が何回も繰返されて何時になっても尽きそうもない。然し遠方に帰る者もあり再会を固く誓って逐次席を立てて行った。この日集まった者は同志36名中18名、書面委任6名であった。記念撮影と寄書に本日の面影を残して楽しかった春の日は暮れて行った。(久保田 記)

大分千曲一同より

下記よせがきが葉書でよせられた。御元気にあふれておいでです。大分支会独立をお許し下さい、とある。



大日本蚕糸会表彰

多年蚕糸業につくされた功績により昭和34年4月28日名誉ある表彰を受けられた上田関係者は次の通りである。

- 蚕糸科学功績賞 信大学長 伊藤 武 男
- 蚕糸功績賞 信大名誉教授 蒲 生 俊 興
- 蚕糸功労賞
  - 鐘淵蚕糸会社重役 湯 沢 重 敬
  - 長野県製糸協会主事 永 井 俊 郎
  - 日本レイヨン製糸課長 小 関 悦 郎
  - 昭栄製糸小山工場長 北 原 喜 久

第5期学術会議候補者として日蚕中部支部

では下記氏を推挙決定し、同本部に通達した。  
全国区 繊維学部教授 八木 政 誠氏  
地方区 片倉蚕業研究所長 福 田 宗 一氏

繊維化学科

- 赤川 正二 上田高
- 荒井 肇 上田高
- 池田 紘二 長野高
- 伊藤 照郎 三重四日市高
- 稲垣 正人 上田高
- 大童 卓也 熊本高
- 浦上 素明 広島誠之館高
- 太田 卓良 上田高
- 折原 逸雄 群馬前橋高
- 木藤 茂 鹿兒島ラサール高
- 久保 基禎 長野工業高
- 黒田 明美 上田高
- 斎所 裕 東京立川高
- 佐藤 広子 新潟糸魚川高
- 鈴木 武司 愛知刈谷高
- 関野 道雄 青森高
- 高木 享 名古屋西高
- 滝本 寿照 愛知岡崎高
- 辻川 寿三 大阪泉陽高
- 戸塚 久雄 静岡掛川西高
- 西沢 信 長野高
- 長谷川 栄一 木曾西高
- 平林 武彦 松本深志高
- 福家 駿吉 千葉市川高
- 堀田 康房 富山中高
- 村井 俊男 松本深志高
- 八木 義博 静岡高
- 山浦 道雄 上田高
- 山口 龍之助 宮城古川高
- 山中 啓幹 三重亀山高
- 横沢 郁子 大町北高
- 吉田 浩二 静岡沼津東高
- 若山 義博 千葉第一高
- 若山 行正 愛知瑞陵高

昭和34年度本学部入学許可者

養蚕学科

- 阿部 辰男 福島農蚕高
- 石原 佑治 山梨韮崎高
- 遠藤 順忠 宮城涌谷高
- 大元 政男 広島戸手高
- 尾崎 毅 静岡御殿場高
- 小貫 正隆 福島白河高
- 喜多川明伸 岐阜本巣高
- 小島 吉男 上田高
- 見玉 彰彦 丸子実業高
- 小林 進 上田高
- 近藤 邦彦 屋代東高
- 酒井 学 岐阜郡上高
- 島田 潤一 上田高
- 白石 昌雄 神奈川
- 日大藤沢高
- 北海道
- 苫小牧東高
- 小果蚕業高
- 屋代東高
- 愛知松蔭高
- 福井敦賀高
- 小果蚕業高
- 松商学園
- 大町南高
- 上田高
- 新潟三条高

- 岩瀬 正康 佐賀武雄高
- 加藤 士朗 愛知明和高
- 桑名 哲二 神奈川
- 平塚江南高
- 兵庫明石
- 市立南高
- 伊那北高
- 上田高
- 長野西高
- 新潟佐渡高
- 野沢北高
- 新潟直江津高
- 岐阜吉越高
- 愛知名大教育
- 学部附属高
- 石川飯田高
- 静岡浜松西高
- 屋代東高
- 長野高
- 果ヶ丘高
- 埼玉不動岡高
- 長野吉田高
- 愛知学院高
- 屋代東高
- 岩村田高

- 打保 勝郎 岐阜斐太高
- 柄沢 幸宣 上田高
- 河原 拓朗 愛知刈谷高
- 佐藤 洋 長野高
- 白木 孝典 愛知名大教育
- 学部附属高
- 上田高
- 愛知豊橋東高
- 愛知東海高
- 愛知一宮高
- 上田高
- 上田高
- 静岡沼津高
- 上田高
- 京都綾部高
- 上田高
- 福岡常磐高
- 長野高
- 上田高
- 松本果ヶ丘高
- 上田高
- 愛知明和高
- 上田高
- 青森高
- 三重四日市高
- 静岡沼津東高
- 広島国泰寺高
- 上田高

蚕糸別科入学許可者

養蚕コース

- 篠原 鉄弥 白田高
- 清水 孝 坂城高
- 花輪 和人 山梨甲府高
- 河沢 正蔵 小果蚕業高

製糸コース

- 恩田 和男 岐阜武儀高
- 中牧 昌弘 屋代東高
- 松沢 昌子 上田染谷高
- 平林喜和子 屋代東高
- 森 尚恵 篠ノ井高
- 山崎登紀子 上田染谷高
- 渡辺悠紀子 松本美須ヶ丘高

製糸学科

- 池田 次郎 岩村田高

紡織学科

- 天川 一良 大阪三国丘高
- 市川 一彦 三重四日市高
- 牛越 宏 松本深志高

昭和33年度蚕糸別科生就職状況

養蚕コース

甘利 紘	大和組製糸KK	埼玉県児玉郡上里村
飯島 守一	日本シルクKK	東松山市松山
石川 幸男	昭栄製糸KK	本庄市
今井 利忠		
岩崎 健一	埼玉繊維工業KK	熊谷市
窪田 政夫	高水社	須坂市
小池 三夫	昭栄製糸KK	本庄市
清水 守勝	三笹酒店	上田市愛宕町
春原 裕		
永井 良治	増島製針KK	小県郡塩田町
中村 宗作	大和組製糸KK	児玉郡神保原

久松 定賢	高水社	須坂市
三井 勝美	埼玉繊維工業KK	熊谷市
製糸コース		
伊東 和子	吉田館製糸所	岡谷市小口
片桐 輝子	大和組製糸KK	児玉郡上里村
小泉 人美	須藤製糸KK	古河市松原町
清水香公子	同	同
相馬 満代	同	同
高藤 康代	原松代製糸所	埴科郡松代町
滝沢 キミ	笠原須賀川工場	福島県須賀川市
藤田志津子	鐘ヶ淵蚕業試験所	東春日井市上田楽町
松田 忠子	須藤製糸本部工場	古河市

会 員 動 静

頁	氏 名	卒 回	新 住 所
96~205	飯 島 真 雄	紡 1	日本繊維工業KK 大阪市東区南久宝寺町4の4
48	浜 名 定 雄	学糸6	利根シルクKK 群馬県沼田市湯根町
44	木 暮 博	学蚕6	塩原蚕種KK 前橋市
236	多 川 澄 平	糸 24	香川県高松市高松町
242	宮 崎 連	糸 17	大分県蚕業試験場 大分市南大分
197	岡 本 克 巳	学糸5	平田紡績KK漁網部 (四日市市大字県ガ須32)
234	渡 辺 博	化 2	富士紡KK生川工場 (愛媛県周桑郡壬生川町)
174	松 岡 基	養 11	辰野町3949
174	須 永 茂	糸 18	伊那市富県南福地
174	桜 井 貞 三	糸 12	伊那市富県桜井
173	小 松 忠 一郎	紡 3	辰野町農協組合長
173	大 石 陸 男	糸 19	伊那市美郷中学校
174	中 村 吉 男	糸 5	朝日農業協同組合専務 上伊那辰野町平出
173	伊 藤 文 雄	化 8	伊那市伊那中央区
173	高 坂 巖 保	紡 8	赤穂高等学校南日向分校
30	阿 部 和	蚕 13	耶麻郡山都町 県立耶麻高校
31	三 瓶 常 四郎	蚕 18	福島農蚕学校 福島市
32	塩 朧	蚕 31	県蚕業試験場原町支場 福島県原町市
31	岩 根 恒 徳	糸 13	小国蚕糸興業KK (伊達郡桑折町)
49~34	三 輪 久 利	蚕 34	亀山製糸郡山出張所 (郡山市外富久山町)
	八 卷 洋 介	糸別7	八巻製糸所 (伊達郡梁川町)
214	川 中 貞 次	蚕 23	姫路市立糸引中学校 (兵庫県)
213	秋 馬 弥 平	蚕 28	(住) 神戸市垂水区塩屋町 404
216	谷 口 伴 次郎	糸 5	農林省神戸生糸検査所 (神戸市葺合区浜辺通8丁目)
215	倉 橋 琢 而	糸 10	西日本蚕糸株式会社 (神戸市葺合区浜辺通)
217	浜 田 秀 弥	糸 26	株式会社日興工務店 (神戸市長田区北町2の14)

広 告 募 集

会報に広告がのることは亦たのしく、  
したしみ深いものです。規定は下記の通  
りですからどうぞ御利用下さい。

寸 法	会 員	会員外
1 頁	4,000円	5,000円
1/2 頁	1,500円	2,000円
1/4 頁	800円	1,000円
1/8 頁	500円	600円

年賀、見舞、移動、その他1駒100円  
毎号連載するときは下記に従う。  
半ヶ年分まで、1ヶ年分までにつき夫  
夫上記各料の50%、30%を1ヶ月分広告  
料とする。

50周年記念事業費申込

(5月4日現在)

1 兵庫支会

5,000円

- 都 築 清 治 (蚕20)
- 大 塚 重 蔵 (糸8)
- 湯 沢 重 敬 (糸9)

3,500円

- 重 田 正 喜 (蚕26)
- 大 坪 健 一 (蚕28)

1,800円

- 今 井 喜 八 (蚕29)

2,500円

- 木 内 更 介 (蚕34)
- 叶 沢 純 一 (糸17)

3,000円

- 倉 橋 琢 而 (糸10)
- 井 立 喜 三 郎 (糸13)
- 望 月 弘 (糸19)
- 堀 江 章 (糸32)
- 岸 本 礼 一 (紡24)

4,000円

- 森 西 康 允 (糸12)
- 千 葉 達 人 (糸18)
- 岩 崎 正 典 (紡16)

10,000円

- 鈴 木 玄 九 (糸18)

2,000円

- 土 居 芳 樹 (糸27)
- 宮 入 治 男 (糸35)
- 秋 野 明 (糸36)

- 小 山 彰 一 (糸36)
- 榎 田 武 (糸37)
- 猪 坂 憲 郎 (紡26)
- 佐 藤 正 明 (紡28)

1,500円

- 丸 田 節 男 (糸38)
- 田 中 実 (学糸1)
- 松 崎 恒 雄 (紡30)
- 小 松 文 雄 (化8)

1,000円

- 中 村 富 隆 (学糸5)
- 石 井 昭 衛 (学糸6)
- 小 林 英 夫 (学紡3)
- 下 平 弘 之 (学紡5)
- 宮 沢 広 之 (学紡5)

2 埼玉支会

10,000円

- 桜 井 汎 (糸16)
- 武 田 一 好 (蚕19)

1,500円

- 宮 下 克 己 (糸37)
- 塚 田 修 一 (糸38)
- 安 達 弘 信 (蚕別2)
- 宮 尾 三 富 統 (蚕38)
- 篠 原 宏 (蚕38)
- 羽 田 重 雄 (学蚕1)
- 久 根 下 榮 一 (学蚕1)

1,000円

- 山 岸 照 武 (学糸6)
- 上 原 忍 (蚕別4)
- 尾 崎 進 (蚕別6)
- 安 達 卓 三 (学蚕7)

- 桜 井 弘 利 (学糸6)
- 高 木 高 男 (学糸6)
- 渡 部 貫 二 (学蚕別5)
- 関 鉄 男 (学蚕別3)
- 滝 沢 守 男 (学糸2)
- 山 口 邦 友 (学蚕2)
- 持 田 正 彦 (学蚕3)

5,000円

- 滝 沢 芳 樹 (糸19)
- 町 田 正 直 (蚕14)
- 井 上 保 雄 (糸15)
- 上 原 俊 幸 (蚕別3)

4,500円

- 岡 島 亀 治 (蚕22)

3,500円

- 片 山 文 一 (蚕29)

2,500円

- 飯 村 喜 一 (蚕33)

3,000円

- 柳 沢 新 一 (蚕31)
- 相 野 田 文 雄 (糸31)
- 小 林 三 郎 (化1)
- 鹿 間 茂 行 (蚕30)
- 田 島 佳 人 (蚕32)

4,000円

- 渡 辺 綱 男 (糸23)
- 近 藤 二 郎 (蚕23)
- 関 茂 (糸22)

2,000円

- 関 光 司 (糸37)
- 太 田 正 (糸35)
- 依 田 治 昭 (化8)
- 久 保 博 俊 (糸35)

蒲生俊興先生  
退官記念品代

自4月6日  
至5月4日

金1,000円

- 野 口 活 也 蚕13
- 都 築 清 治 // 20
- 榎 内 明 // 28

金 500円

- 中 島 角 太 郎 // 14
- 三 瓶 常 四 郎 // 18
- 岡 本 榮 一 糸15
- 天 野 末 治 蚕9
- 吉 野 健 吉 // 4
- 鈴 木 玄 九 糸18
- 太 田 元 蚕18

倉沢美德先生  
退官記念品代

自4月6日  
至5月4日

金1,000円

- 野 口 活 也 蚕13
- 都 築 清 治 // 20
- 榎 内 明 // 28

金 500円

- 三 瓶 常 四 郎 // 18
- 岡 本 榮 一 糸15
- 天 野 末 治 蚕9
- 吉 野 健 吉 // 4
- 鈴 木 玄 九 糸18
- 太 田 元 蚕18
- 中 島 角 太 郎 // 14

本 会 日 誌

- 4月7日 上小支会幹事を本会館で開催
- 4月12日 愛知支会西三河地区総会に野口理事長出席
- 4月16日 神奈川支会定期総会に白井理事出席
- 7月17日 愛知支会長杏樹久雄氏来訪
- 4月18日 本会理事会拡大役員会を母校会議室に開催
- 4月18日 福島支会総会に坂口理事出席
- 4月19日 更埴支会総会に野口理事長出席

母 校 だ よ り

4月29日 学部対抗軟式庭球大会が、招待チームを加えて行われた。男女別順位は次の通りである。

- 男子 1位 教育学部
- 2位 繊維学部
- 女子 1位 附属看護学校
- 2位 長野短大

編 集 後 記

編集研究会を開いて、充分使命を果せるように計画しています。

- 編集理事 田口亮平・白井美明
- 編集顧問 小山長雄
- 編集部員 一之瀬匡興
- 三石 賢 矢彦沢清允
- 降旗 剛寛 篠原 昭

特許・実用新案  
商標 出願・審判・訴訟代理

浜 特 許 事 務 所

弁 理 士 浜 香 三

事務所

自宅

むさしの市藤町 公園住宅75030110

東京都千代田区麹町三丁目一番地

大野晋特許事務所内

電話 (三〇) 一四四四番